

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
101	政治学演習 I (浅野豊美)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	浅野 豊美
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国民概念の探究 — 世界の紛争原因としてのナショナリズム理解と和解に向けて

授業概要 Course Outline

外交的妥協は、利益やパワーを計算し国益を折半して行われ、主体としての国民そのものは変化がない。他方で、「国民的和解」は国民という巨大な集団を作っている共有された記憶の変容を伴い、無意識のうちに相互の記憶が気づいたら変容しているような状態と定義される。それはいまだ現実には存在しない。しかし、東アジアでは「国民」形成が100-160年の間に急速に、国家主導で行われ、その国家が帝国として植民地支配も戦争も行い、また、冷戦下では開発独裁の主体ともなったために、上からの開発・豊かさか、下からの人間の尊厳と自由かが、国民的記憶のあり方をめぐって、国境を超えて、また、国内においても、いまだに摩擦・対立を続けている状態と定義できるであろう。授業では、国民、という存在を成立せしめている集合的記憶に焦点を当て、それを冷静に対象として認識し、各自の研究テーマ（安全保障・経済・文化に関わるもので各自が選択）に活かせるようにしてほしい。

授業の到達目標 Objectives

- ・右や左の政治的に極端な議論に面してもたじろがずに、冷静に対応できる軸を各自が持つこと。
- ・政治学と国際関係学の理論と、グローバルヒストリーとしての東アジアと日本の歴史学とを、対話させながら、長期的な時間軸をもって、現在の現象を認識し、独自に考える力を養う。そのため、テキストブックのどれか一冊を取り上げて、著者に問いかけ、社会に十分通用するような説得力のある卒業論文を仕上げるのが目標となります。2年間は、その目標に向けて、関連する本と付き合わせて、皆で一緒に深く読みます。
- ・一回しか起きない現象としての現在の世界情勢は、過去のなんらかの側面を反復しつつ、全く新しい変化を伴ってスパイラル的に生じる。そのようなイメージで、現実を自分なりに認識・判断する力を養う。つまり、各自が関心を持つ分野とそれぞれの価値（安全—平和・経済—豊かさ・文化—生きがい）が、国民という巨大な集団を単位としつつ、それを超える地域や、その内部のより小さな団体をも視野に入れて、どのように世界を構成しているのかをイメージできるような知的体力と現実への構想力を養うことに、論文執筆はつながっていくでしょう。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

・テキストブックに簡単に目を通す。特に、英語のテキスト（Moyn, Samuel. The Last Utopia: Human Rights in History, Harvard University Press, 2010: E-bookで読める）と、リンハントの日本語訳を重視する。あとは、自分の身の回りの経験を思い出しながら、人権とは何か、豊かさとは何かを、自分の言葉と体験に根ざして考えてきてください。なぜなら、集合的記憶を選択せしめるものが、個人と全体、それぞれに関わる価値だからです。社会全体に関わる価値と、社会を構成する個に関わる価値、その二つが集合的記憶を分裂させたり安定させたりすると考えています。最初の授業で、自分にとっての人権という価値、豊かさという価値について、質問をします。各自のコアな部分に触れる体験を思い出してください。ただし、言いたくない人は、言える範囲で構いません。

>>英語のテキストのPrologueに目を通して、自己・もしくは家族・コミュニティの体験を思い出して反芻してきてください。

・プレゼミでは、まず、ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）について、今まで日本語・英語で出た書評を読み、ナショナリズムを自分なりに考えるミニレポートの執筆を目標とします。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション（ゼミの目的と概要）／本ゼミの目的と概要について説明します。
- 第2回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読 第1章から
- 第3回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第4回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第5回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第6回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第7回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第8回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第9回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第10回：Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013 の購読
- 第11回：購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第12回：購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第13回：購読：Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- 第14回：購読：まとめ、各自の問題意識の整理

教科書
Textbooks

＜以下の3冊を教科書として、この3冊を深く関連させて読むことがゼミの目標となります。E-bookあり、また、購入を勧めます＞

- ・リン・ハント『人権を創造する』
- ・アライダ・アスマン『想起の文化—忘却から対話へ』岩波書店
- ・Moyn, Samuel. The Last Utopia : Human Rights in History, Harvard University Press, 2010
- ・Reus-Smit, Christian. Individual Rights and the Making of the International System, Cambridge University Press, 2013

＜以上の3冊を読むための基礎文献として以下があります。さらに参考文献とあるのは3号館地下の学生読書室にあります＞

ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや訳『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』（書籍工房早山、2007年）

ドブ・ローネン『自決とは何か』刀水書房

参考文献
Reference Books

- 宮城大蔵『「海洋国家」日本の戦後』ちくま新書、2008年。
- 三谷太一郎『近代日本の戦争と政治（岩波人文書セレクション）』（岩波書店、2010）
- 酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）
- 浅野豊美『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編—請求権と歴史認識問題の起源』慈学社、2013年。
- 浅野豊美『帝国日本の植民地法制』名古屋大学出版会、2008年。
- 藤田 覚『天皇の歴史6 江戸時代の天皇』講談社学術文庫
- 黒川祐次『ウクライナの歴史 ヨーロッパ最後の大国』中公新書。
- ゲルナー、加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店、2000年
- 浅野豊美『和解学叢書 第一巻 和解学の試み』

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポ-ト Papers	40%	最終レポート執筆以前に、予備的なレポートを少なくとも一回課す。
平常点評価 Class Participation	30%	演習への出席、授業参加意欲を総合的に評価する。 三回以上無断欠席したものは単位を取れない。
そ の 他 Others	30%	レジュメ（報告の際に準備してくるプリント）

備考・関連URL Note・URL

講義に全く出たことがないヒトは以下の模擬講義が参考となる。
<http://www.waseda.jp/taiken-waseda/academics/school/pse/>
 以下が、自己紹介のHP。 将来は、ゼミのためのHPを作成する予定。
<http://www.f.waseda.jp/toasano/index.html>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
102	政治学演習 I (稲継裕昭)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	稲継 裕昭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

行政の諸活動を分析する

授業概要 Course Outline

行政の諸活動は私たちの生活に知らず知らずのうちに大きな影響を与えている。

ある行政活動は、どのような構造のもとに、どのようなアクターが、どのように行動することによって行われているのか。

基礎的なことを学ぶとともに、いくつかの行政課題およびその解決策を特定し、なぜそのような行動がとられたのかその原因を考える。

ゼミのキーワードは、「書を持って街へ出よう」です。理論と実践の統合を目指します。教室による輪読などの座学と、フィールドワークとを組み合わせているのが、当ゼミの特徴です。輪読などによる基礎知識の習得と、現場に出たり（現場の方を迎えたり）して、実践的な動きを把握することとを組み合わせる学びます。プレゼミでは基本書を読み、3年生からは実践を経験しつつそれを理論的に分析することを目指します。3年次にグループ研究を進めて、調査方法や分析方法について学び、4年次には個々人の卒論を仕上げます。

中央省庁や地方自治体の幹部や若手職員をゲストスピーカーとして招く場合があります。

2022年以降の実績・・総務大臣政務官（衆議院議員、元自治官僚）、総務省公務員課長、総務省若手官僚、財務省主計局若手官僚、福井県越前市長・元福井県副知事、国会議員（元防衛大臣）、CodeForJapanスタッフ/滋賀県日野町参与、デベロッパー若手、シンクタンク若手、商社若手、文部科学省中堅課長、東京都デジタルサービス局長、新宿区商店街連合会会長（元衆議院議員）

#中央省庁や地方自治体を訪れてヒアリングなどを行う場合があります。

2022年以降の実績

福井県越前市役所（市長面会）、豊島区役所、富山県庁（知事面会）、金沢市役所、高山市役所、三重県伊勢市役所、多紀町役場、高知県日高村、梶原町、高知県庁、山口県山口市（市長面会）、岩国市、

2024年度、北海道土士幌町、長崎県長崎市（副市長面会）、大村市（市みや長面会）、坂出市、高松市（市長面会）

2025年度、夏、熊本県庁、熊本県益城町、熊本県菊陽町、宮崎市、都城市、宮崎県新富町

#1年間を通して特定の自治体にフィールドワークに入り、政策提言を行っています。

2018年茅ヶ崎市、岡山県真庭市、2019年岡山県美咲町、2020年岡山県美咲町、茅ヶ崎市、2021年茅ヶ崎市、2022年茅ヶ崎市、2023年茅ヶ崎市、荒川区日暮里繊維街（地域活性化のご提案）、

2024年の場合、3年生=茅ヶ崎市、日暮里繊維街（こちらはプレゼミ生に引継ぎ）、4年生=福井県（ウェルビーイングに関する提言。小浜市・越前市・県。福井県庁と早稲田大学とで契約をしていました）

#合宿は、3年の夏、3年の冬、4年の夏の3回、2泊3日で行います。合宿への参加は単位取得のために必須です。

コロナ禍期間中は殆どできませんでしたが、現在は完全に元に戻っています。過去3年間、合宿は次の場所で行いました。

2022年夏は4年生が富山県庁、金沢市役所、3年生が越前市役所、2023年春は3年生が高山市役所。

2023年夏は4年生が三重県（伊勢市、多気町）、3年生が高知県（日高村、梶原町）、2023年冬は3年生が山口市役所、岩国市役所

2024年夏は4年生が北海道（土士幌町中心に3泊4日）、3年生が長崎県（長崎市、大村市）、冬は3年生が香川県（坂出市、高松市、高松丸亀商店街）

2025年夏は4年生が宮崎県（都城市、宮崎市、新富町中心に3泊4日）、3年生が熊本県（県庁、益城町、菊陽町）、冬未定

授業の到達目標 Objectives

行政に関する諸課題について政治学的に考察する力、文章で表現する力を培う。
論理的に考え書き発表する能力を養うこと。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

プレゼミで、『行政学』（曾我謙吾）を読んでもらいます。
その報告の過程で、パワーポイントの作成の仕方、効果的なプレゼンの方法、論理的思考を身に付ける種々の取り組みを行います。
報告に際してはそれぞれ4年生のメンターがつきます。
プレゼミは例年、毎週火曜日の5時限に教室に来ていただいて、上級生に交じって受けてもらっていました。

フィールドワークで出かける時（プレゼミ期間中に、1回か2回）は、3時限終了後すぐに大学を出発します。（遠方へ行く場合は、2時限終了後に大学を出発することもあります）。
例年、プレゼミ期間中にフィールドワークに出かけます。

授業計画 Course Schedule

第1回－第5回：演習イントロ。R入門講座、ウィブル『公共政策』輪読、「行政学」の残りの輪読。

第8回－第14回：ゼミ生で決めてもらいます
1, 2回のフィールドワークと、1, 2回のゲスト講師。

合宿は参加必須ですが、行き先や時期はゼミ生で話し合って決めます。これまでは、3年夏、3年冬、4年夏の3回の合宿をしてきました。

2泊3日の日程は、おおむね1日目、2日目に自治体を訪問しヒアリングなど、3日目は適宜観光等を行っています。

その他ゼミ生主体で予定を決めていきます。

なお、合宿参加は必須で、合宿に不参加の場合は単位不可となります。

大勢で行動することが苦手であるなど合宿参加ができない人は最初から申し込まないでください。

教科書 Textbooks

曾我謙吾『行政学』有斐閣アルマ

Weible著（稲継他訳）『公共政策－政策過程の理論とフレームワーク』成文堂

すでにプレゼミで輪読を終えているテキスト（北山俊哉ほか著『初めて出会う政治学』、久米郁男『原因を推論する』、戸田山和久『新版 論文の教室』、北山俊哉・稲継裕昭編著『テキストブック地方自治』）も適宜参照することがあります。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	55%	特別の事情がない限り欠席を認めていませんので、欠席の際には大きく減点。なお、5時限で終わらず6時限に延長することもあるので、サークルへ活動が火曜日にある人は継続が困難です。6時限でも対応できる人に限り受け入れます。 課題のMoodleへの期限内提出。(期限に遅れると大きく減点) 報告内容、討議への参加度。レポート課題に対し剽窃が見つかった場合は厳しく対処します。
その他 Others	45%	行事(合宿、フィールドワーク、その他)への参加度も評価の対象となります。合宿への参加は必須。

備考・関連URL Note・URL

ゼミ生たちが自主的に作成・運営しているゼミのホームページ（作成に稲継は関与していません（PWも知らない）が、適切に作成してきてくれており、ゼミ活動やゼミの雰囲気を知る上で大変参考になると思います）
<http://inatsuguzemi.wix.com/wasedapase-undergrad>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
103	政治学演習 I (稲村一隆)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	稲村 一隆
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治哲学・思想史

授業概要 Course Outline

政治哲学は社会規範について探究する学問です。国際援助と分配の正義、能力主義、正戦論、フェミニズムと結婚、人権と動物の権利、といったトピックについて、現代社会で生じている問題を知ると同時に、そうした問題の背後にある考え方をすることが主眼です。そこで具体的な事例から出発しつつも、理論的にかつ歴史的に広い視野で考察することになります。

まずインプットが重要なので、授業では政治哲学の基本文献を通して上記のトピックを学んでいきます。基本文献として、西洋政治思想史の古典を講読したり、現代の理論的な著作を検討したりしています。どのテキストを扱うかは参加者の関心に応じて決めています。前者の例として、プラトン『国家』、アリストテレス『政治学』、ロック『統治二論』、カント『永遠平和のために』、ミル『自由論』、アーレント『人間の条件』、フーコー『性の歴史』など、後者の例として、アマルティア・セン『不平等の再検討』、アイリス・ヤング『正義と差異の政治』、ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』など。最近では、歴史学や文化人類学の視点を通して政治哲学の課題に取り組むことを重視しています。論理的に分析するだけのおしまいとすることはなく、想像力を働かせて、他の文化や他の時代のことを理解しようとする姿勢を推奨しています。

一人で読んで理解するのは難しくても、みなで議論しながら考察すると、学部生の間に十分に理解を深めることができるようになります。

本演習の特色の一つとして、論文の執筆を重要視しています。教員の英国での経験を生かして、政治哲学・思想史分野での論文の書き方を学習します。

トピックの選定については参加者各自の自主性を尊重しつつ、任意のトピックについて十分に資料を収集してから、毎学期、レポートを書きます。

自分と異なる見解を持つ人も説得できるように、丁寧に議論を作る訓練をします。

授業の到達目標 Objectives

- 1) 当該分野の古典を読む訓練を積むこと。
- 2) 当該分野の英語論文を読む習慣を身につけること。
- 3) 当該分野で論文を書く技法を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめ指定された文献を読んで議論したい点を考えてくること。毎回、予習が必要になります。また期末レポートに向けて、自分でトピックを選び、それに必要なことを自分で調査することが求められます。

何をトピックにするかは参加者の自主性を尊重しています。

授業計画
Course Schedule

具体的な計画は学期のはじめに参加者と相談の上、決定します。

3年次は文献の講読を中心に行います。テキストを読む訓練を積みみます。

4年次は文献の講読だけでなく、卒業論文の作成にも取り組みます。先行研究を踏まえた上で、新しい議論を提示することが求められます。期末レポートをもとに授業内での討論を通して、徐々に完成できるようになります。

教科書
Textbooks

初回の授業で指定します。

参考文献
Reference Books

政治哲学の入門書として以下を参照：

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』早川書房、2011年。
ジョナサン・ウルフ『「正しい政策」がないならどうすべきか』勁草書房、2016年。
アマルティア・セン『人間の安全保障』集英社新書、2006年。

論文の書き方や、政治哲学・思想史の方法論の著作として以下を参照：

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年。
デイヴィッド・レオポルドほか（編）『政治理論入門』慶應義塾大学出版会、2011年。
犬塚元ほか「政治思想史の新しい手法特集号」『思想』no. 1143、2019年7月。
リチャード・ワットモア『入門 政治思想史』中央公論新社、2025年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	十分な調査を行なっているかどうか、議論を丁寧に組み立てているかどうか
平常点評価 Class Participation	50%	授業中の議論に積極的に参加しているかどうか
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
104	政治学演習 I (梅森直之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	梅森 直之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

紛争解決学への思想史的アプローチ
An intellectual historical approach to conflict resolution studies

授業概要 Course Outline

「紛争」が、社会生活をおくる人間の宿命であるかぎり、「和解」もまた人間の普遍的な営みの一部である。しかし和解はつねに、一定の歴史的・文化的刻印を帯びてあらわれる。紛争を生み出す社会の編制は多様であり、また歴史的に変化するものであるからである。本セミナーでは、紛争と和解をめぐって積み重ねられてきた人類の思索と実践を、思想史的視座からとらえ直し、未来に向けた社会構築のヴィジョンを構想する。本セミナーでは、単に既存の紛争を解決するための技術論を目指すのではなく、むしろ「紛争」や「和解」という現象そのものの構造を、それに対する原理的な反対を含め、根源的に考察することをめざす。具体的には、もっぱら東アジアの歴史を事例として用いながら、そこに現れた諸問題を、「ナショナリズム」、「ジェンダー」、「資本主義」という三つの視座から、解きほぐすことを試みる。東アジアの歴史を、具体的な問題と重ね合わせながら議論することを通じて、紛争と和解をめぐる解決の糸口を構想する。

As long as “conflict” remains an inevitable aspect of human social life, “reconciliation” will continue to be a universal human endeavor. Yet reconciliation always takes shape with distinct historical and cultural characteristics, as the social structures that give rise to conflict vary and evolve over time.

This seminar will reexamine the body of human thought and practice surrounding conflict and reconciliation from the perspective of intellectual history, with the aim of envisioning new possibilities for constructing future societies. Rather than simply developing techniques for resolving existing conflicts, we will undertake a fundamental exploration of the very structure of “conflict” and “reconciliation,” including the principles that underlie their opposition.

Focusing on the history of East Asia as a case study, the seminar will examine a range of issues from three interrelated perspectives: nationalism, gender, and capitalism. By grounding our discussions in concrete historical cases, we aim to identify paths toward conflict resolution and reconciliation.

授業の到達目標 Objectives

テキストの「読み方」の習得
自分の考えを効果的に伝える「書き方」の練習
生産的に「議論する」訓練
思想史的方法、ならびに社会理論についての基本概念の習得
日本の歴史についての基本的知識の習得
「和解学」の基礎としてのナショナリズム論、ジェンダースタディーズ、資本主義論への理解

Develop skills in reading texts critically and analytically.

Practice writing effectively to communicate ideas clearly

Engage in productive discussions to exchange perspectives.

Acquire foundational concepts in the historical method and social theory.

Build basic knowledge of Japanese history.

Understand key frameworks—nationalism, gender studies, and capitalism—as foundations for the study of reconciliation.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

Instructions will be provided in class as necessary.

授業計画 Course Schedule

本ゼミでは、以下の四つの次元において、東アジアの歴史問題の構造を明確化することをめざす。ゼミの進め方としては、関連テキストの輪読と学生の報告に基づく議論が中心となる。

問題に接近する第一の次元は、「歴史とは何か」を根源的に問い直すことである。歴史は、客観的な事実であると同時に、一定の意味を発生させる物語でもある。「歴史」そのものの重層的な構造を解明することを通じて、東アジアの各国の歴史認識が対立する理由とその和解に向けた可能性について議論する。

第二の次元は、「ナショナリズム」である。東アジアの近代を、戦争と帝国主義と植民地主義により織りなされたひとつの歴史空間として把握することを通じて、各国のナショナリズムの特質を構造的に把握することをめざす。

第三の次元は、「ジェンダー」である。「従軍慰安婦」問題は、日韓の国民的対立であると同時に、東アジアにおける女性の社会的位置づけの反映でもある。東アジアにおける女性の歴史を、こんにちのジェンダーギャップ問題と重ね合わせながら振り返っていく。

第四の次元は、「資本主義」である。東アジアに共通する根強い発展志向が、どのように「紛争」を惹起し、またそれを隠蔽してきたかを確認する。

本ゼミでは、具体的なテーマに則したディスカッションに加え、学术论文の書き方、プレゼンテーション・スキルアップの方法等についてのワークショップを、必要に応じて適宜行う。

This seminar aims to clarify the structural dimensions of historical issues in East Asia by exploring them through four key analytical perspectives. The seminar will primarily consist of close readings of relevant texts and student-led presentations followed by discussions.

The first dimension involves a fundamental reexamination of the question: What is history? History is both an objective record of facts and a narrative that generates meaning. By analyzing the multilayered nature of “history” itself, we will discuss the reasons behind conflicting historical perceptions among East Asian countries and explore possibilities for reconciliation.

The second dimension is nationalism. By understanding modern East Asia as a shared historical space shaped by war, imperialism, and colonialism, we aim to identify the structural characteristics of nationalism in each country.

The third dimension is gender. The issue of “comfort women” is not only a source of national conflict between Japan and Korea, but also reflects the broader position of women in East Asian societies. We will

revisit the history of women in the region while linking it to contemporary issues such as the gender gap.

The fourth dimension is capitalism. We will examine how the region's persistent drive for development has both generated and concealed various conflicts.

In addition to discussions on specific topics, the seminar will also include occasional workshops on academic writing, presentation skills, and other relevant competencies as needed.

教科書 Textbooks

授業期間中に指示する。

Instructions will be given during class sessions.

参考文献 Reference Books

梅森直之『初期社会主義の地形学』（有志舎、2016）
梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』（光文社、2007）
ハリー・ハルトゥニアン『近代による超克』（岩波書店、2007）
コンラート『グローバルヒストリー』（岩波書店、2021）
Benedict Anderson, Imagined Community
Harry Harootunian, Overcome by Modernity
Conrad, Sebastian, What is Global History?

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業参加ならびにレポートを総合的に評価する。 Class participation and reports will be evaluated comprehensively.

備考・関連URL Note・URL

これまでの基礎知識は問いませんが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。

自国の事例を、他国に向けて発信したり、自国以外の国の人々と積極的に議論する意欲と能力を持つ学生を歓迎します。

No prior knowledge is required, but students must have a strong motivation and curiosity for learning, along with intellectual flexibility and perseverance.

Students with three or more unexcused absences will not be eligible for evaluation.

We welcome students who are eager and able to present case studies from their own countries to an international audience and to engage in discussions with peers from other nations actively.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
105	政治学演習 I (尾野嘉邦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	尾野 嘉邦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

選挙と投票行動

授業概要 Course Outline

投票行動に焦点を当てた政治行動論の演習です。

人間はいろいろな場面で選択を迫られますが、選挙における投票という行為も選択の一つです。選択を迫られたとき、人はどのように決めるのだろうか、選択を左右するものは何だろうか、より良い選択をするにはどうしたらよのだろうか。フェイクニュースやデジタルテクノロジーなどによって、人々の自発的選択が無意識のうちに誘導されてしまうことはないのだろうか。選挙で当選を目指す候補者ならば、どう行動したらよのだろうか。

選挙という場面に焦点を当てて、こうした選挙における人々の選択や行動と民主主義の行方について、政治学だけでなく、心理学や行動経済学といった他領域の研究も参考にしながら考え、新しい知見のアウトプットを目指す演習です。その過程で、データの実証分析やサーベイ実験を始め、研究成果のプレゼンテーション、論文執筆などにもチャレンジしてもらいます。また、データ収集の過程において、視線計測装置などを用いた実験を行うこともあります。

授業の到達目標 Objectives

学際融合型の社会科学の最前線に触れつつ、社会科学の考え方を学ぶとともに、物事を多様な面から客観的かつ批判的に考えることができる思考力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

演習時間外に実験課題などに取り組むことが求められます。また、合宿なども行う予定です。

授業計画 Course Schedule

政治学の分野では、学部生の卒業論文や研究が学術雑誌に掲載されるケースが増えてきました。また、最近では米国中西部政治学会といった海外の学会などで、学部生が研究発表を行う機会も設けられています。2年間の演習を通じて、一緒に出版可能な学術研究に取り組んでいきましょう。

前期は、社会科学の基礎的な考え方や研究方法を学びつつ、政治学や心理学、経済学を中心として、投票行動を始めとする人間の行動に関する社会科学の最先端の研究内容や、国際学術誌への投稿プロセスなどについて紹介します(学術論文の査読にも挑戦してもらいます)。ニューロサイエンスや生命科学、AIを活用したテキスト分析・顔形態分析など、工学や自然科学の知見が社会科学にどのように活用されるのか、そしてどのような貢献が可能なのかについても検討していきます。その過程で、先行研究を読んでレビューするとともに、さらに研究してみたいリサーチクエストについて考えてもらいます。

後期は、各自のリサーチクエストをもとに、実際の研究に取り組みます。データをどのように集め、分析したらよいいのか、リサーチデザインを練り、サーベイ実験などを通じて、仮説を検証する作業を行ってもらいます。

Week 1. イントロダクション

Week 2-6 投票行動関連文献研究

Week 7 研究アイデア発表
 Week 8-10 投票行動関連関連文献研究
 Week 11-13 投票行動関連関連文献研究Week 14 まとめ

教科書
Textbooks

適宜指定します。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	プレゼンテーションのほか、議論への参加・貢献度合いに基づき評価する（2回以上の無断欠席があった場合は、0点とします）
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

この演習では基本的に英語で書かれた文献を扱うとともに、英語でのアウトプットを目指します。海外からのゲストを招いた講演や研究交流なども行われることがあります。参加者には英語読解能力が求められますが、英文を読んだり、書いたり、話したりすることに慣れていない人も、演習での訓練を通じて、そのスキルを磨いていきましょう。また、Rなどを用いた計量分析の能力も求められます。

「計量分析(政治)」(もしくはそれに準じる計量分析に関する科目)の履修を必須とします。3年次終了までに履修してください。

例年、2回の合宿を行っており、原則として、履修者全員の参加が求められます。プレゼミ生も含めて、全履修者は木曜2限目を空けておいてください。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
106	政治学演習 I (国吉知樹)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	国吉 知樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代日本外交の分析

授業概要 Course Outline

本演習では現代日本の国際関係・外交について理論および歴史の両面から考察する。

演習では、最初に基礎的なテキストの輪読と議論を通じて国際政治学の基礎概念について理解を深める。つづいて戦後日本外交史の論争点について日米関係および日本と近隣アジア諸国の関係に焦点を当てて分析を行う。さらに現代日本外交に関わる分析概念や論争的なイシューについて代表的な文献をたたき台にして議論をする。ここでは日本の安全保障問題、歴史認識問題とアジア外交、日中間の経済相互依存の意義、日韓文化交流の意義、日ロ間領土問題、日本の地域主義外交、沖縄の基地問題、気候変動問題への取り組み、および「人間の安全保障」分野、とりわけ日本の難民政策などを取り上げる予定である。

また、春学期の中盤から秋学期にかけて、ゼミ内で3～4人からなる複数のグループを組み、それぞれのグループが戦後日本外交に関わる論争的なイシューについてテーマを決め、外交文書の調査・分析を行い、共同論文の作成に取り組む。

演習 I では以上のようなプロセスを通じて外交を分析するための手法・視点を磨き、卒業論文執筆のための準備を進めていく予定である。日本が現在直面する外交上の諸問題を理解するために、国際関係の理論と歴史の習得に熱意を持って取り組み、積極的に議論に参加する意欲を持った学生を歓迎する。

授業の到達目標 Objectives

1. 国際関係論の基礎概念を理解する。
2. 現代日本外交の形成と意義を理解するために必要な理論的・歴史的的分析手法を習得する。
3. グループ論文への取り組みを通じて、学術論文を執筆するために必要な研究の手順、調査の方法を学び、執筆の心構えを身に付ける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

- ・受講生はゼミでの議論に積極的に参加するために、事前に必ず課題文献を読んで演習に臨むことが求められる。
- ・グループ論文の作成にあたっては、グループ間で事前に文献や資料を検討し、共同で発表準備を行う。
- ・グループ論文の作成にあたって、授業でのフィードバックを基にして、新たな調査を行い、論文の執筆と修正を行う。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：ガイダンス
 第2回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（1）
 第3回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（2）
 第4回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（3）
 第5回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（4）
 第6回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（5）
 第7回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（6）
 第8回：文献講読とディスカッション：国際政治学の基礎概念（7）
 第9回：日本外交 グループ論文の作成：テーマ設定について
 第10回：日本外交 グループ論文の作成：リサーチデザインの検討と資料調査について
 第11回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（1）
 第12回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（2）
 第13回：日本外交 グループ論文の作成：先行研究の検討（3）
 第14回：日本外交 グループ論文の作成：調査の中間報告とディスカッション

教科書
Textbooks

大矢根聡編 『戦後日本外交から見る国際関係：歴史と理論をつなぐ視座』（ミネルヴァ書房、2021年）。
 ピーター・カッツェンスタイン 『文化と国防：戦後日本の警察と軍隊』（日本経済評論社、2007年）。
 国分良成・添谷芳秀・高原明生・川島真 『日中関係史』（有斐閣、2013年）。
 マイケル・シャラー 『「日米関係」とは何だったのか：占領期から冷戦終結後まで』（草思社、2004年）。
 ジョン・ダワー 『敗戦を抱きしめて』（増補版 上・下）（岩波書店、2004年）。
 高橋哲哉・山影進編 『人間の安全保障』（東京大学出版会、2008年）。
 ヴィクター・D. チャ（倉田秀也訳） 『米日韓 反目を超えた提携』（有斐閣、2003年）。
 波多野澄雄・佐藤晋 『現代日本の東南アジア政策』（早稲田大学出版部、2007年）。
 波多野澄雄編 『日本の外交 第2巻：外交史 戦後編』（岩波書店、2013年）。
 中島信吾 『戦後日本の防衛政策—「吉田路線」をめぐる政治・外交・軍事』（慶應義塾大学出版会、2006年）。
 宮城大蔵編 『戦後日本のアジア外交』（ミネルヴァ書房、2015年）。
 吉田真吾 『日米同盟の制度化：発展と深化の歴史過程』（名古屋大学出版社、2012年）。
 若宮啓文 『戦後70年 保守のアジア観』（朝日新聞出版、2014年）。
 李鍾元・木宮正史・磯崎典世・浅羽祐樹 『戦後日韓関係史』（有斐閣、2017年）。
 Joseph S. Nye and David A. Welch, *Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History*, 9th edition, Pearson Education, 2012.

参考文献
Reference Books

ゼミにおいて適宜紹介する。
 グループ・ワークの際には、外務省が編纂・刊行した戦後期の『日本外交文書』を適宜参照する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	グループ論文作成への取り組み
平常点評価 Class Participation	70%	プレゼンテーション (30%); 出席および議論への参加、ゼミ運営への貢献 etc. (40%)
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

- ・グループ論文の作成にあたっては、外務省外交史料館で調査を行う。
- ・春（3月）および夏（8月末あるいは9月初め）に2学年合同で合宿を行う予定です。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
107	政治学演習 I (栗崎周平)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	栗崎 周平
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際政治の理論研究・実証研究
Scientific Study of International Relations

授業概要 Course Outline

国際政治、主に安全保障に関わる論点（国際紛争、平和構築、内戦、国際組織、国家間競争など）について、その原因、メカニズム、解決策、さらには政策論的含意などを考察するために、理論研究ないし実証研究を行います。単なる時事問題の討議や既存研究の評論に留まらず、各々が持つ国際政治についての問題意識に基づいて独自の学術研究を二年間かけて行います。理論研究ではゲーム理論を用い、実証研究では計量分析を行います。ゲーム・モデルの分析から導出された仮説の検証という、理論と実証の組み合わせでも構いません。

ゼミ生には以下のうちいずれかのプロジェクトに取り組んでもらいます。
ゲーム理論を用いた数理分析
データ科学を用いた計量分析
起業を念頭にしたビジネスモデルの策定

国際政治（PKOの効果、戦争終結と無条件降伏のミクロ的基礎付け）の理論研究、比較政治に関する研究、政治学に留まらない基礎的な研究、各国の政策を調査する事例分析、VCなど投資家からの資金調達を達成するための（ビジネスモデルの策定と）ピッチデッキの作成などに現在のゼミ生は取り組んでいます。

<https://skurizaki.github.io/u-seminar.html>

授業の到達目標 Objectives

- 1) 大学・政治学研究という枠の中ですが、国際舞台・研究競争に打って出る力を養う。
- 2) ゲーム理論による理論研究や統計分析による実証研究を通して、論理的に説得的に魅力的に議論を展開できるようになること。
- 3) そのための技術の習得（Critical thinking、argumentation、問題発見能力と問題解決能力、プロジェクト立案遂行能力、ロジック、データ分析、ライティング、プレゼンテーション能力）。
- 4) 文献の読み方3つのテクニック（本2時間読了、論文裏読み、短期間多読）を身に付ける。
- 5) 5年後ないし10年後の目標達成のためのグランドストラテジーの策定

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

実証分析に関しては、データを扱う事の楽しさを味わってもらために政治学教員が担当する「政治経済の計量分析」を薦めます。「計量政治学」はUCLA政治学部と同内容ですのでお勧めします。

解析的・分析的な政治の理論研究に関しては、モデル分析の面白さを味わってもらうために、例えば「比較経済制度分析」などがお勧めです。

授業計画
Course Schedule

演習 I & II :

- 第1回：イントロダクション
- 第2-15回：Kydd教科書や研究論文（APSRなど）の輪読と各自研究テーマについてのブレインストーミング
- 第16-20回：関心テーマについてLiterature Review報告
- 第21-25回：先行研究の再現・複製を通じた研究プロジェクト企画立案
- 第26-30回：研究プロジェクト（パイロットスタディ）発表

演習 III & IV :

- 第1-2回：ISA学会プロポーザル(300 words)批評会
- 第3-10回：プロジェクト遂行とLabミーティング
- 第11-20回：プロジェクト中間報告とLabミーティング
- 第21-30回：研究成果の論文執筆と発表への準備

教科書
Textbooks

David A. Lake and Robert Powell. 1999. Strategic Choice and International Relations. Princeton University Press.

William Spaniel. Formal Models of Crisis Bargaining. Cambridge University Press

Andrew Kydd. 2015. International Relations Theory: Game Theoretic Approach. Cambridge University Press.

国際政治研究の主要学術雑誌：APSR, AJPS, IO, IS, JCR, ISQ, などが実質的な教科書となります。

参考文献
Reference Books

特になし。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	N/A
レポート Papers	0%	N/A
平常点評価 Class Participation	100%	参加することに意義があります。各人のゼミとの付き合い方は様々であっても良いと考えています。上記の栗崎の提供する教育サービスをどのように利用するかは、各自が決定すべきことで、それに応じて成績は割り当てられると考えてください。したがって、オリジナルの研究をしないというスタイルの参加であれば、それ相応の成績を取得して頂く、というビジネスモデルです。
その他 Others	0%	N/A

備考・関連URL
Note・URL

ゼミには正式登録しない参加希望者は直接連絡を下さい。ゼミ未登録者による参加はこれまでも参加いただいております。学内他学部に留まらず学外からの参加者もいます。

応募に関する情報は、下記リンク先でスクロールダウンして下さい。

<https://skurizaki.github.io/u-seminar.html>

本演習で作成されることが期待される学術論文やポスターは下記から参照できます：

https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90WcoS0hjWE9CcXZJZGs/view?usp=sharing

https://drive.google.com/file/d/0B_-BxaJ90Wcoc1hvZ0xyYklrZms/view?usp=sharing

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
108	政治学演習 I (小林哲郎)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小林 哲郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

メディアと世論の関係について学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

政治におけるメディアとコミュニケーションの関係について学び、実証的な仮説検証を行います。政治学だけでなく、社会心理学やジャーナリズム研究など幅広い関心を持つことが必須となります。前期は実証研究のための基礎的な訓練と文献レビューを通してリサーチクエスチョンを深めると同時に、データ収集の準備を行います。後期はデータに基づいた仮説検証と、論文の執筆を行います。

調査や実験データの分析、メディアの内容分析を行いますので、基礎統計レベルの知識とRを使った基本的な分析スキルを持っていることが望ましいです(ただし必須ではない)。また、英語論文も読みますから英語力は必須です。

授業の到達目標 Objectives

データに基づいて仮説検証を行う力を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

自発的に研究課題に関する文献を読み、考え、手を動かして分析する。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第3回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第4回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第5回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第6回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第7回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第8回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第9回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第10回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第11回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第12回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第13回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。
- 第14回：学生が主体的に発表を行い、教員がフィードバックを行うスタイルで演習を行う。

教科書 Textbooks

追って指示する。

参考文献
Reference Books

追って指示する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	研究発表のプレゼンテーションと論文で評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加と積極的な発言によって評価する。正当な理由がある場合を除き、無断欠席が2回あった場合には評価は不可とする。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
109	政治学演習 I (小原隆治)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	小原 隆治
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

自治・分権を考える

授業概要 Course Outline

自治・分権をめぐるさまざまな問題を多面的な角度から考察する。政治学演習I(春学期)は、参加者が複数のテキストを輪読形式で読み進める。今年度は、まず最初に担当教員が著した論文1本を取り上げて検討する。そのあと3人の著者の手になる教科書的なテキスト1冊を扱い(第16、18章はスキップする)、各自の問題意識を深めてもらう。政治学演習I(春学期)のあとの政治学演習II(夏合宿-秋学期)では、参加者が春学期の学習を踏まえてそれぞれ関心あるテーマを選択し、テーマ別に編成したグループ単位で研究報告を積み重ねる。ゼミの学習面でも運営面でも、参加者の自主性に大いに期待したい。ゼミもまた「自治」の実践の場だからである。ゼミに出席することは参加者の権利だが、そこには相応の責任がともなう。無断欠席は認められない。また、相当の理由なく学期回数3分の1以上欠席した者は、ゼミに参加する権利を自動的に失う。春学期に失格した者は、秋学期に参加する権利を持たない。

授業の到達目標 Objectives

自治・分権をめぐる全体的な問題状況を把握する。そのうえで個別具体的な制度・政策・事例のレベルに落としとして課題を考察する方法態度を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

参加者が自身の報告にあたって事前に十分準備をするのは当然だが、毎回事後に、すべての参加者がクラスで提起された論点等に関し、ムードル上に設置する意見・質問箱のスペース等を利用した議論に積極的に参加することが望まれる。

授業計画 Course Schedule

第1回：ガイダンス
第2回：小原(2012)を1回で輪読する。
第3回-第12回：磯崎・金井・伊藤(2025)を2章ずつ、10回で輪読する(第16、18章はスキップする)。
第13回-第14回：今後の打ち合わせ(グループ研究のテーマに関する討論、グループ編成、夏合宿の打ち合わせなど)

教科書 Textbooks

小原隆治(2012)「自治・分権とデモクラシー」齋藤純一・田村哲樹編『アクセス デモクラシー論』日本経済評論社
磯崎初仁・金井利之・伊藤正次(2025)『ホーンブック 地方自治(新2版)』北樹出版
小原(2012)は、担当教員が受講者にPDFを用意する。

参考文献 Reference Books

開講時をはじめ随時紹介する。

<p>評価方法 Evaluation</p>

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	前述の出席要件を満たしていることを前提として、日頃のゼミへの貢献度を評価する。
その他 Others	%	

<p>備考・関連URL Note・URL</p>

開講中はアナウンスメント等の箇所を含め、ワセダムードルを丹念にチェックする。
関連URLは随時紹介する。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
110	政治学演習 I (清水潤)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	清水 潤
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題
Subtitle

法学・憲法学

授業概要
Course Outline

法学や憲法学についての学術的な文献を輪読します。輪読とは、テキストをあらかじめ決め、その割り当て部分について参加者全員であらかじめ読んできて議論することです。

イメージとしては、同じ映画を見て感想を言い合うというものに近いです。同じ本を全員で読んで、色々な意見や疑問をぶつけて議論します。

読むテキストは受講生の関心になるべく沿うものにしたいと思います。憲法に限らず、法哲学、歴史、比較法、外国法、倫理学などに興味を持っている学生も歓迎します。

特にゼミ生の強い希望がない場合は、
法学の入門書から読み始めようかと思えます。例えば次のような本です。

早川吉尚『法学入門』(有斐閣ストゥディア、2016年)
内田貴『高校生のための法学入門-法学とはどんな学問なのか』(信山社、2022年)
大村敦志『Civilの理学 民法0・1・2・3条再考』(信山社、2025年)
中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』(岩波書店、2009年)
西川洋一ほか『法の歴史と法解釈の基礎』(中央経済社、2025年) 東京大学法学部『いま、法学を知りたい君へ: 世界をひろげる13講』(有斐閣、2024年)

2. 読む文献の一例

本ゼミは2026年度から開講ですので、過去の実績はないですが、担当教員の前任校のゼミでは以下のような書籍を輪読しています。

2020年度

- ジョン・ロック『統治論』(原著:1689年)
- 駒村圭吾編『テキストとしての判決:「近代」と「憲法」を読み解く』(有斐閣、2016年)
- ロバート・ダール『アメリカ憲法は民主的か』(岩波書店、2003年)
- 阪口正二郎編『憲法改正をよく考える』(日本評論社、2018年)
- 佐藤幸治『立憲主義について』(左右社、2015年)
- 安西文雄ほか『憲法学の現代的論点』第二版(有斐閣、2009年)

2021年度

- 神島裕子『正義とは何か』(中公新書、2018年)
- 田上孝一『はじめての動物倫理学』(集英社新書、2021年)
- エリザベス・ブレイク『最小の結婚 結婚をめぐる法と道徳』(白澤社、2019年)
- プラトン『クリトン』(岩波文庫、原著紀元前400年ころ)
- ホップズ『リヴァイアサン』(光文社古典新訳文庫、原著1651年)
- 大林啓吾ほか『コロナの憲法学』(弘文堂、2021年)

2022年度

- A. 宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書、2020年）
- B. 松村圭一郎『くらしのアナキズム』（ミシマ出版、2021年）
- C. 山本圭『現代民主主義』（中公新書、2021年）
- D. カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か』（光文社古典新訳文庫、2006年）
- E. 藤原帰一『「正しい戦争」は本当にあるのか』（講談社新書、2022年）
- F. E. H. カー『歴史とは何か』（岩波新書、1962年）
- G. カール・シュミット『現代議会主義の精神的状況』（岩波文庫、2015年）

2023年度

- A. 戸谷洋志『未来倫理』（集英社新書、2023年）
- B. 重田園江『ホモ・エコノミクス 利己的人間の思想史』（ちくま新書、2022年）
- C. ロック『完訳統治二論』（岩波文庫、2010年）
- D. 内田貴『高校生のための法学入門-法学とはどんな学問なのか』（信山社、2022年）
- E. 山本龍彦ほか『AIと憲法』（日本経済新聞社、2018年）
- F. ナイジェル・ウォーバートン『「表現の自由」入門』（岩波書店、2015年）

2024年度

- A. 森田果『法学を学ぶのはなぜ?: 気づいたら法学部, にならないための法学入門』（有斐閣、2020年）
- B. 将基面貴巳『従順さのどこがいけないのか』（ちくまプリマー新書、2021年）
- C. 吉崎祥司『「自己責任論」をのりこえる: 連帯と「社会的責任」の哲学』（学習の友社、2014年）
- D. マーカス・フェルソン『日常生活の犯罪学』（日本評論社、2005年）

このように、憲法史の古典や、日本や海外の法学や哲学の著作を読み、様々な問題について考えていくことが目的です。

担当教員の関心からすると、日本の時事的な憲法ネタよりは、憲法の歴史や思想に興味がありますが、例えば夫婦別姓訴訟について考えてみたい、司法試験に興味がある、というような要望がある学生も歓迎します。

受講生が特に実定法に強い関心を持っている場合には、日本や外国の判例や教科書を読んでも良いと思っています。

授業の到達目標 Objectives

学術的な文献を読み、他者と対話する方法を身につけること。
可能であれば、法的な考え方を身につけること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

1. 指定された文献の予習
指定文献の指定された範囲を読んできてください（毎週、全員）
2. レジュメの作成
指定された文献の要約を作ってきてください。レジュメ作成は毎週1人担当者を決めます。それ以外の人
は読んでくるだけで構いません。

授業計画 Course Schedule

毎週、指定された文献を輪読を行います。

教科書 Textbooks

ゼミ開始後、受講生の興味関心に従って決定します。

参考文献 Reference Books

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	平常点100%

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
111	政治学演習 I (シュラトフヤロスラブ)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	シュラトフ ヤロスラブ
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ロシア近現代史

授業概要 Course Outline

- * 本演習では、ロシア近現代史を考察の対象とし、国際政治の文脈で分析する。ロシア帝国時代から現代にかけての政治や外交、民族問題などを多面的な角度から検証し、政治外交史の様々な側面の分析を試みる。場合により、日露・日ソ関係やロシア・ソ連の対外政策を中心とすることもありうるが、具体的な内容（実際に扱う時期や領域など）は演習参加者の関心次第で決定する。
- * 政治学演習IIは、テキスト（先行研究・史料など）の輪読が中心となる。政治学演習IIは輪読も行うが、参加者が演習Iの学習を踏まえて選択した研究テーマについてリサーチを行い、各自で報告することに重点を置く。
- * 本演習は学生によるプレゼンテーション・ディスカッションを重視し、各参加者が自主的に学習することが求められる。
- * 無断欠席は認められず、毎回積極的に参加することが求められる。
- * 合宿も行う予定であるが、具体的なスケジュールなどは演習参加者と相談の上で決定する。

授業の到達目標 Objectives

- 1) ロシア近現代政治・外交史（帝政期・ソ連期・ロシア連邦期）の様々な側面に対する知識を身につけ、北東ユーラシアの国際関係史について理解を深めること。
- 2) 各自の研究テーマに関する先行研究（日本語・英語、場合によってはロシア語）を徹底的に調べ、批判的思考力を駆使し、口頭と文章で発表する能力を涵養すること。
- 3) 卒業論文を執筆するために必要なリサーチ方法や分析手法を習得すること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回のディスカッションに積極的に参加するために、必ず事前に学習する必要がある。

なお、プレゼミ期間中に下記の活動を実施する予定である。

- * 先行研究を熟読し、各自でプレゼンテーションをし、全員でディスカッションを行う（書籍は別途紹介する）
- * 1～2回数ほどフィールドワークに出かける予定である（詳細は別途紹介する）

授業計画 Course Schedule

主な活動は学生によるプレゼンテーションとディスカッションであるが、具体的な計画は、初回の授業でガイダンスを行い、参加者と相談の上で決定する。

教科書 Textbooks

適宜紹介する。

参考文献
Reference Books

適宜紹介する。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	授業への出席、ディスカッションへの取り組み、課題の達成度などに 基づいて総合的に評価する。

備考・関連URL
Note・URL

この授業は基本的に日本語で行われるが、ロシア語の学習歴を持つことが必須である。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
112	政治学演習 I (ソジエ内田恵美)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	ソジエ内田 恵美
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治言語学—ディスコース分析の理論と実践

授業概要 Course Outline

現代社会において、言語が果たす役割が重要であることは論を待たない。

民主主義国家においては、政治リーダーは言葉を使って有権者に自らの政治的信条、政策や政権の正統性を説き、支持を得なければならない。しかし、彼らの言葉、レトリックや手法は一樣ではなく、政治・社会の構造的変化によっても大きく変わってきている。近年では、政治マーケティングの体系化による影響は著しい。メディアもまた、グローバル化やソーシャルメディアの発達により、その社会的影響力が高まる一方で、事実より感情を重視する「ポスト真実」と呼ばれる状況や、左右のイデオロギーへの二極化が指摘され、大きく揺れている。そのような社会的状況を鑑み、本講義では、言語と政治の関係について多角的視点をもって考えたい。

授業では、アリストテレスやレイコフの理論を基にした政治演説のレトリック分析から、フーコーやブルドゥーによる社会理論を発展させた批判的言説分析の事例を扱い、政治エリートがどのような言葉を使って社会的な現実を構築し、一定の社会的規範を常識化し、正当化しているかを分析し、考察するための理論と方法を学ぶ。また、メディアが社会でどのような役割を果たしているのか、についても考える。講義の前半は分析のために必要な概念や理論を学ぶが、後半は具体的なデータ収集の方法や分析手法に焦点を当てる。3年前期は主に量的、質的分析手法について学ぶ。後期からは、各自が卒業論文に向けて研究を行う。本演習は、演習参加者の関心に合わせて、英語・日本語の研究文献を扱う。

授業の到達目標 Objectives

政治ディスコース研究の基礎を培うため、その背景となる理論や分析方法を学ぶ。この講義では言語学的なアプローチを取り、量的分析と質的分析の在り方について考える。受講者はこれらの研究方法の意義と限界を理解し、独自で研究を進めるための基本的な能力を養う。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

例年、夏合宿と年二回のゼミ発表への参加は必須。

授業計画 Course Schedule

第一回：オリエンテーション
第二回～第九回：講義、文献講読（英語および日本語）
第十回～第十一回：ディスコース分析の計画と準備
第十二回～第十四回：ディスコース分析レポートの書き方、準備
第十五回：ディスコース分析レポート提出

教科書 Textbooks

授業中に指示、または配布。

参考文献
Reference Books

アリストテレス (1992) 『弁論術』 戸塚 七郎訳 岩波文庫。
 Lakoff, George (2003) Metaphors We Live by. University of Chicago Press.
 Fairclough, Norman (2014) (3rd) Language and Power. Routledge
 Machin David & Andrea Mayr (2012) How to do Critical Discourse Analysis. Sage Publications.
 van Leeuwen, Theo (2008) Discourse and Practice: New Tools for Critical Discourse Analysis. Oxford University Press.

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	論文、課題など
平常点評価 Class Participation	20%	出席と議論への参加など
その他 Others	20%	口頭発表など

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
113	政治学演習 I (田中孝彦)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	田中 孝彦
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

冷戦期および冷戦後国際政治の歴史的過程と国際秩序の変容--1945年-2025年

授業概要 Course Outline

* 田中孝彦ゼミの教員によるゼミオリエンテーションの動画を必ずご覧ください。

【問題意識】

現在、わたくしたちは歴史的な国際秩序の変化に直面しています。第二次世界大戦後、1990年代初頭にかけて世界政治のありかたを大きく規定していたのは冷戦といわれる国際政治でした。それが終焉した後、冷戦秩序に代わる新しい安定した世界秩序は、容易には構築されませんでした。その一つの帰結として、現在の行く先の見えない国際社会の状況があるといえます。この授業では、冷戦期の国際政治が、どのような変化を見せて、今日の国際政治の様々な条件を形成してきたのかについて分析を加えるとともに、冷戦後世界秩序の動向についても大きく俯瞰することを通じて、これからの世界秩序のありかたについて考察します。

【授業の方式】

< 討論中心の授業 >

授業のやり方については、ゼミ生と相談して決めていきますが、現時点では次のように考えています。

毎回の授業は、テキストの指定された章や指定された論文を各自が読んできて、討論を行います。その際、毎週2名の報告担当者(Commentators)が論点を提示し、それをたたき台として討論を行います。

報告担当者は、(1) 議論すべき論点 (2) テキストに対する批判、をあわせて3つ以上提示しなければなりません。(1)については、なぜその論点(疑問点)が重要なのかについて説明をしてもらいます。(2)については、論理的および実証的にテキストの建設的批判を展開してもらいます。なお、報告担当者に加えて、討論者(Discussants)を2名決め、Commentatorの報告に対してその場で簡潔なレスポンスをもらいます。

< 利用する文献 >

授業で利用するテキストは、以下の著作です。

前期：青野利彦著『冷戦史』上下2巻，中公新書

夏合宿：冷戦後世界秩序に関する論文を数本

後期～翌年前期：Vladislav Zubok (2025) The World of the Cold War 1945-1991, Penguin.

その他の文献については、授業中に適宜紹介します。

授業の到達目標 Objectives

冷戦期から今日までの世界政治の状況を、歴史的に分析する力を身につける。具体的には以下の目標を掲げたいと思います。

- (1) 世界政治の歴史的な文脈を知る。何が終焉し、何が変化し、何が継続し、何が新たに生み出されたのかを見極める。
- (2) 歴史的な事象の原因について、自分なりの仮説をたて、それを歴史的証拠に基づき検証する手法を身につける。
- (3) 今日の世界政治における様々な問題の淵源を、冷戦期の現象の中に見出す。
- (4) 歴史を学ぶことによって、現在の理解を深めるとともに、未来へのトレンドを把握する。

大きくいって、21世紀のあるべき国際秩序のあり方を考えるのが、このゼミの目標です。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

【事前学習】

- (1) 授業計画に示されているテキストの該当箇所や論文は、必ず読んでおくことが前提として求められます。
- (2) 「国際関係史I」を履修してあることが望まれますが、必修ではありません。

【事後学習】

- (1) 授業中に話せなかったことや、議論できなかった論点について、Waseda Moodleの機能を利用して自主的にディスカッションを行ってください。適宜、私もチェックしてコメントします。
- (2) 学期中にショート・エッセイの提出を求めます。それを通じて、事後学習を行ってください。

授業計画
Course Schedule

プレゼミ：(これについてはプレゼミ専用のシラバスで別途詳しくお知らせします.)

プレゼミは課題形式で行います。使用するテキストは、Robert McMahon (2021) *The Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford University Press, (邦訳：ロバート・マクマン著『冷戦史』勁草書房[平井和也訳、青野利彦監訳])。これを一冊読んで、冷戦期国際政治史の概要を把握してもらいます。課題としては書評を執筆してもらいます。書評において触れるべき点など詳細については、プレゼミ専用シラバスをご覧ください。

前期：

前期では、プレゼミで得た知識と論点についての理解をさらに深めてもらいます。利用するテキストは、青野利彦著(2023年)『冷戦史』上下2巻、中公新書、です。

マクマンのテキストは、典型的な初学者用入門書ですが、このテキストはより詳細な概説書です。取り扱っている事象もより多く、その記述は、ソ連はもとより、東欧諸国、第三世界、そして世界政治のみならず世界経済の動向などにも及んでいます。また、重要な事象の因果関係については、マクマンよりも踏み込んだ記述となっています。

授業では、毎週1章ずつ読んでゆき、前期中に全巻を読破することを目指します、また外交文書をなどの重要な史料もその抜粋を適宜読んで、実証的な理解を深めます。

夏合宿：

9月初旬から中旬にかけて、軽井沢セミナーハウスで合宿を行います。合宿では、冷戦終焉後における国際秩序の展開と変化についての定評のある論文(英語)を数本読み、現在の国際秩序の状況へ世界が至った経緯、その問題点などについて議論を戦わせます。

後期：(政治学演習II)

Vladislav Zubok, *The World of the Cold War, 1945-1991*を読みます。

この著作は、主に米ソ関係の展開に焦点をあてた研究ですが、多くの冷戦通史研究がアメリカの外交・軍事戦略の展開に重点が置かれるのとは異なり、ソ連の動向についてもバランスのとれた取り扱いをしている点が特徴的です。

基本的に前期同様、毎週1章(30ページ前後)を読んでゆきます。英文は平易で読みやすいので、英語力の鍛錬にも役立つと思います。後期中に完読することを目指します。

教科書
Textbooks

以下の文献を教科書として利用する。

前期： 青野利彦著(2023)『冷戦史』上下2巻、中公新書

夏合宿：冷戦後世界秩序に関する論文を数本

後期～翌年前期：Vladislav Zubok (2025) *The World of the Cold War 1945-1991*, Penguin.

その他の文献については、授業中に適宜紹介します。

【史料集】

Edward H. Judge and John W. Langdon (1999) *The Cold War: A History Through Documents*.

参考文献
Reference Books

適宜、授業で指定します。

評価方法 Evaluation

試験 Examinations	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	試験は行わない。
レポート Papers	20%	学期中に提出されるエッセイを評価する。(予定)
平常点評価 Class Participation	80%	報告担当時の報告内容について、その論理性、実証性、独自性を評価する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

【授業形態についての重要事項】 基本的に対面で行う予定ですが、諸事情により一部Zoomによるオンライン実施になる場合もあります。その場合には適宜周知します。

【その他】

政治学演習I以降は英語文献をかなり大量に読んでもらいます。それゆえ、英文読解に自信の無い人には、ハードルが高いかも知れませんが、あきらめずに続ければ、かならず上達します。ガッツをもって果敢に挑戦する方に期待します。史料などが掲載されているwebsiteのURLなどは、適宜授業中などにお知らせします。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
114	政治学演習 I (都丸潤子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	都丸 潤子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析

授業概要 Course Outline

この演習では、多様な主体によって重層的に構成されている国際社会において、トランスナショナルな現象の代表例である人間およびその集団の移動が、どのような原因で生じ、いかなる過程を経て、どのような結果をもたらすかを社会科学的に分析し、理解を深めることを目的とする。分析にあたっては、理論にとどまることなく特に実証分析を重視し、政治的・経済的側面だけでなく、文化的・社会的・心理的な側面からの検討を行う。具体的には、移民・難民・ディアスポラ・出稼ぎ・派遣・留学・国際交流・兵士・人身取引などさまざまな形のヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容と権利・安全をめぐる問題、送出国・経由国・ホスト国や国際組織の関与、移動者と移動元・移動先の社会との関係や多文化共存のあり方などを研究対象とする。また、ヒトの国際移動の歴史は古く、特にナショナル・ヒストリーとグローバル・ヒストリーをつなぐ現象とされる植民地化と脱植民地化の過程で起こった社会・文化変容・外交政策の変化やヒトの移動の影響は、現在にも広くみられる。従って、このような事例に関する歴史的分析も重視したい。また、現在私たちが直面しているグローバル・イシューとしてのCOVID-19パンデミックや戦争と人の国際移動の関係の検討も試みる。これらの視点は、人間集団のなかでも、一般市民、マイノリティ、弱者の立場から国際社会の現象を捉えなおすことにもつながる。参加者と一緒に、より人の顔のみえる国際関係像をさぐってゆきたい。

授業の到達目標 Objectives

国際関係においてヒトの移動が果たした役割を歴史的な脈絡の中で理解し、私たちが直面したコロナ禍も含めて、現代国際社会のさまざまなイシューとのつながりを多角的に、人々の経験や感情を重視した(人の顔のみえる)形で把握することをめざしたい。各参加者が現代の諸問題解決への具体的なアプローチを、説得的に提示できるようになることが理想である。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

以下は主として初年次履修学生春学期Iの授業計画です。秋学期の演習IIにおいては、輪読も行いますが、ゼミ論のテーマについて、各自が報告、グループディスカッションを行う機会をふやします。1年でゼミ論を執筆する予定の学生、大学院進学・留学希望者には、早期執筆のための個別課題の設定や個人指導も行います。

輪読、報告と討論の回では、基本的に各回について報告者、コメンテーター(議論の口火を切る役目)を決めて、学生の主体的参加と討論を重視します。

3、4年生合同のゼミも有効かつ好評だったため、適宜合同開催も行う。

第1回：ガイダンス、導入的講義と問題提起：国際関係論の研究・分析とは？ なぜ国際移動が重要か？

第2回～第4回：輪読とディスカッション：テキストを以下の教科書欄の導入的文献などから選び、履修者全員が事前に批判的・発展的に読んでくる。あらかじめ指定された報告者・コメンテーターが内容の紹介と批判的・発展的論点の提示を行い、全員で討論をする。

第5回～第9回：輪読または3、4年生合同ゼミの形での4年生のゼミ論中間報告(各回2-3名ずつ)と質疑

応答。

第10回～第13回：ゼミ論テーマ・プロポーザル：各回につき、テーマの近い学生約3-4名ずつが各自のテーマ案を報告し、全体で質疑応答を行う。

第14回：まとめと夏休みの課題呈示（共通テーマによるグループ別共同研究、または共通テキストの批判的・発展的輪読）。

夏合宿はゼミ生諸氏の希望状況によって実施の有無を検討します。

実施する場合、内容は、夏休みの課題についてのグループ報告・討論、最終年次学生はゼミ論研究の中間報告となります。

教科書 Textbooks

<春学期 I：導入的文献>

ロビン・コーエン『移民の世界史』東京書籍、2020年。

S・カースルズ、M・J・ミラー著、関根政美、関根 薫訳『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会、2011年。

ロビン・コーエン、ポール・ケネディ著、山之内靖監訳『グローバル・ソシオロジーI、II』平凡社、2003年。

トマス・ソーウェル著、内藤嘉昭訳『征服と文化の世界史』明石書店、2004年。

秋田茂『イギリス帝国の歴史-アジアから考える』中公新書、2012年。

塩川伸明『民族とネイション-ナショナリズムという難問』岩波新書、2008年。

滝澤三郎・山田満編著『難民を知るための基礎知識』明石書店、2017年。

(秋学期のIIではより発展的な文献、英文文献を輪読する予定)

参考文献 Reference Books

詳細は開講中に履修者の関心に合わせて示すので、ここでは主な参考文献をあげておきます。

平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2005年。

日本比較政治学会編『年報2009：移民と国内政治の変容』ミネルヴァ書房、2009年。

平野健一郎ほか編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年。

山田美和編『「人身取引」問題の学際的研究』IDE-JETRO アジア経済研究所、2016年。

北川勝彦編『イギリス帝国と20世紀 第4巻 脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年。

O・A・ウェスタッド著、佐々木雄太ほか訳『グローバル冷戦史』名古屋大学出版会、2010年。

ヴァミク・ヴォルカン著、水谷驥訳『誇りと憎悪：民族紛争の心理学』共同通信社、1999年。

梶田孝道・丹野清人・樋口直人『顔の見えない定住化-日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会、2005年。

デイヴィッド・バットストーン著、山岡万里子訳『告発・現代の人身売買：奴隷にされる女性と子ども』朝日新聞出版、2010年。

Walker Connor, *Ethnonationalism*, Princeton University Press, 1994.

John Darwin, *Unfinished Empire: The Global Expansion of Britain*, Penguin, 2012.

Philip D. Curtin, *The World and the West*, Cambridge University Press, 2002.

Marjorie Harper and Stephen Constantine, *Migration and Empire*, Oxford University Press, 2010.

Alexander Betts and Gil Loescher, eds., *Refugees in International Relations*, Oxford University Press, 2011.

David Kyle and Rey Koslowski, eds., *Global Human Smuggling*, 2nd edn., Johns Hopkins University Press, 2011.

評価方法 Evaluation

試 験 Examinations	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
レポ-ト Papers	20%	報告用レジュメの充実度などで評価する
平常点評価 Class Participation	80%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
そ の 他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

本ゼミでは、積み上げ式の演習と論文指導を行い、上級生・下級生を含めたゼミメンバー同士の切磋琢磨を重視しますので、仲間を大切に、卒業まで必ず在籍して報告・議論に積極的に参加し、ゼミ論文を完成させる覚悟のある方を受け入れます。

留学計画がある場合には、各自の履修計画が履修／単位取得条件を満たすかどうかを事前に事務所で確認の上、応募時にわかる範囲で、あるいは留学決定後すみやかに、その旨教員まで申し出てください。

留学をまたいでの履修計画等については、履修・登録方法について事務所で手続きを確認のうえ、早めに教員に相談してください。

国際政治経済学科生、経済学科生も大いに歓迎します。

ゼミ初年次終了までにできるだけ国際社会関係論を履習してください。左の科目に加え、国際関係論入門もすでに履習していることが望まれます。

主体的に研究を進めてゼミ論を完成させる熱意を持ち、卒業後も含めて仲間を大切に、建設的な議論のできる学生のみなさんを歓迎します。

学部で卒業し実務をとおした社会貢献を考える学生諸氏はもちろんのこと、国内外の大学院進学希望者も大いに歓迎し、その目標にあわせた指導を行います。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
115	政治学演習 I (仲内英三)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	仲内 英三
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

近現代西欧政治社会の歴史

授業概要 Course Outline

本年度は、ファシズムについて検討していく。近年デモクラシーの危機が叫ばれ、世界各地でファシズムの再来を意識させるさまざまな現象が起こっている。その意味を的確に認識するために、20世紀前半にヨーロッパや日本で起こったファシズムについて、理解を深めておくことが肝要であろう。それは当時のファシズムを理解するうえで重要であるばかりでなく、現在のヨーロッパや日本のファシズムやポピュリズムを考えるうえでも非常に示唆に富むものである。

授業の到達目標 Objectives

20世紀前半のファシズムを知ることで、現在のファシズムやポピュリズムについて理解を深める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：ファシズムの概念規定
- 第3回～第5回：思想としてのファシズム
- 第6回～第8回：運動としてのファシズム
- 第9回～第11回：体制としてのファシズム
- 第12回～第14回：全体主義、近代化論、権威主義との比較

教科書 Textbooks

山口定『ファシズム』、岩波現代文庫

参考文献 Reference Books

授業のはじめに、参考文献の一覧表を配布する。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	なし
レポート Papers	0%	なし
平常点評価 Class Participation	100%	演習は基本的に授業に出席することから始まるので、まず普段の授業への参加が出发点となる。授業では1回～2回の発表の機会があるので、その出来具合も評価の対象となる。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
116	政治学演習 I (中村英俊)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	中村 英俊
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際政治の理論と現実－英国学派を中心に

授業概要 Course Outline

「グローバルなリベラル秩序」が流動化している。EU・ヨーロッパ統合（ブレグジットを含む）、アジア（インド太平洋）の地域統合、日米欧G7体制とG20サミット、国際連合（国連システム）、核拡散問題、気候変動問題、感染症拡大問題など国際関係・国際政治の事例について、その本質（「現実」）を研究（理解・説明・分析）する上で、私たちは一定の理論的枠組みを必要とする。

国際政治の理論研究は、第二次世界大戦後、アメリカの学界を舞台に発展してきたと言える。そこでは、リアリズムとリベラリズムの間のパラダイム論争が重要な位置を占めてきた。しかし、大西洋の反対側・英国（および他のヨーロッパ諸国）の国際政治学界では、アメリカの学問的流行とは一線を画した、独特な理論研究が積み重ねられてきた。「英国学派」（English School）と呼ばれる国際政治の見方（パラダイム）を学ぶことが、本演習の基本的目標である。

本演習は、プレ演習後に I から IV までを（2 年余りにわたり）連続履修する典型例では、次のような段階で展開する。まず第 1 段階（プレ演習と演習 I）では、邦語・邦訳文献を中心にした輪読を通して、主にアメリカ国際政治学界で展開してきたリアリズムとリベラリズムの論争について概観したい。つぎの第 2 段階（演習 I と演習 II）では、「英国学派」の国際政治理論についても基礎知識を身に付けた後、より専門的な英語文献に取り組みたい。具体的には、International Affairs、International Security、International Organization、International Studies Quarterly、European Journal of International Relations、Journal of Common Market Studies、Journal of European Public Policy などの学術誌から各自が関心を寄せるテーマの論文を選び、報告・輪読の作業を重ねる。この段階で、各自が研究テーマを絞り込む作業を始めることになる。この段階で、各自の事例研究に必要な方法論（研究手法）の習得も始めることが求められる。最後に第 3 段階（演習 II から IV）では、それまでの理論研究の成果を踏まえて、（一次資料などのデータ収集を続けながら）各自が事例研究のテーマを決定する。そして最終的に、理論研究と事例研究が上手く融合する卒業論文（ゼミナール論文）を完成してもらおう。

授業の到達目標 Objectives

原則として 2 年間で、良い卒業論文を書き上げてもらう。そのために、順次、必要な知的訓練を重ねてもらう。

本演習 I（3 年春学期）では教科書（Nye and Welch）および各章ごとに関連する文献を輪読してもらう。共通の知的基盤を構築した後、夏季休業中には各自の研究テーマを本格的に考え始め、演習 II（3 年秋学期）では各自のテーマに即した先行研究（学術誌の英語論文）を輪読する。3 年終了時点で、まずはタームペーパーを提出してもらう。4 年への過渡期（2 - 3 月）に、同タームペーパーに基づく報告会を開催し、卒業論文完成へ向けての課題（多くの場合は資料収集に関する課題）を自覚してもらうことになる。演習 III（4 年春学期）では、卒業論文の中間報告を重ね、特に夏季休業中には（3 年生も前に）報告会を開催する。演習 IV（4 年秋学期）で完成させる卒業論文については、1 月末か 2 月初旬に最終報告会を開催することにする。（* 2027 年度のゼミ運営について、備考欄を必ず参照。）

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

演習 I に先立つ「プレ演習」では、演習 I テキストの翻訳（『国際紛争』）を中心に日本語の基礎文献を読み込んでもらう。

演習 I では、英語テキスト（および関連文献）の輪読と同時に、各自の研究テーマを考えてもらう。（演習 I では毎週の事前学習として、レジュメ作成や輪読コメントの準備など多くの時間を割くだろう。事後学習としては、演習 II 終了時点で完成するタームペーパーに関連する論点の考察を深める時間を確保する必要があるだろう。）

演習 I の後は夏合宿などを挟んで、各自の研究テーマに関する日本語・英語などの文献（先行研究）調査を試みてもらう。演習 II の輪読テキストは、各自の研究テーマを反映した、英文雑誌の論文（複数）である。

授業計画
Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：国際政治の研究テーマ
- 第3回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 1）
- 第4回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 2）
- 第5回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 3）
- 第6回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 4）
- 第7回：各自が関心を寄せるテーマに関する英語の先行研究の調査実習
- 第8回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 5）
- 第9回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 6）
- 第10回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 7）
- 第11回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 8）
- 第12回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 9）
- 第13回：英語基礎文献輪読（Nye and Welch, Chap. 10）
- 第14回：各自の研究テーマの選定：先行研究の検討
（＊8月初旬予定の報告会：各自の暫定的研究テーマについて）

教科書
Textbooks

Joseph S. Nye and David A. Welch, Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History (10th Edition; Pearson 2017)

参考文献
Reference Books

適宜指定する

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	50%	報告用レジュメの作成などで評価する
平常点評価 Class Participation	50%	毎回のゼミへの積極的な参加姿勢など
その他 Others	0%	特になし

【2027年度のゼミ運営について】ゼミの運営形式について、2026年度は例年通りの予定です。しかし、2027年度は在外研究を予定しているため、4年生の演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習論文は、例年とは異なるゼミ運営方法になります。木曜5時限に開講予定の毎週のゼミはZoom開催になることが多く、集中ゼミ、夏合宿、春の報告会などの開催方法も例年とは異なるでしょう。また、1年間はゼミ募集を停止する予定なので、直接の後輩はいないゼミとなる予定です。

【関連科目】国際関係領域の必修選択科目（「国際関係論入門」および「国際政治学」*）に加えて、「国際機構論」および「地域統合論」は（必ず3年生までに）履修してください。（*2025年度春学期に私が担当した「国際政治学」の単位を取得した方が望ましいです。）

【学生に対する要望】切磋琢磨して学びあえる、厳しく楽しいゼミを創りたいと思います。様々なグループワークに積極的かつ主体的に参加してくれる人の応募を待っています。演習論文完成までゼミに関与し続ける意思および能力（実行力）の強さ・高さを選考基準として最優先します。

【例年通りの留意事項】毎週木曜5時限のゼミ（演習ⅠとⅡ）は時間を延長して（6時限も）ジックリと議論を深めます。2月初旬予定のゼミ合宿あるいは集中ゼミ、夏季休業中（8月初旬予定）のゼミ合宿あるいは集中ゼミへも参加してください。学期中の土曜日などに集中講義形式で「補講」を実施することもあります。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
117	政治学演習 I (日野愛郎)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	日野 愛郎
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代政治の実証分析 (Empirical Analyses of Contemporary Politics)

授業概要 Course Outline

このゼミは政治を実証的に分析することに関心を持つ仲間とともに楽しく真剣に学問を追究するゼミです。ゼミのテーマは政治に関するデータを実証的に分析するものであればどのようなものでも構いません。データを分析するためには、その方法を学ぶ必要があります。たとえば、メディアと選挙に関する実証分析を行うとしましょう。そのためには「メディア」をはじめとする送り手の分析や「選挙」における有権者をはじめとする受け手の分析の方法を習得する必要があります。例えば、メディアや政党、政治家などの送り手のメッセージの分析や有権者や読者・視聴者・ユーザーなどの受け手の意識や行動の分析を行うこととなります。このゼミでは、メディアや政党・政治家のメッセージを数量化する手法である内容分析 (content analysis) や統計モデルに基づく計量テキスト分析の手法を学ぶことができます。同様に、世論調査 (内容をランダムに変える調査実験を含む) やソーシャル・メディアへの投稿内容の分析方法を学び、有権者や一般の人々の態度や反応を明らかにします。また、複数の国や地域を統合的に分析する比較分析の手法 (マルチレベル分析) も、必要に応じて学んでいきます。テーマに応じて、適切な分析手法を学び、応用しています。現代政治の実証分析に関連する分野では、有権者の投票行動分析や政党の政策競争の分析をはじめとして多くの研究成果が蓄積されています。このゼミでは、これまでの豊かな研究の蓄積を踏まえて、ゼミ生同士でアイデアを出し合いながら、新しい知見を産み出すことを目指しています。この目標を達成するために、ゼミの1年目は実証分析をするために必要となる様々なデータ収集・作成の手続きや分析手法と一緒に学んでいきます。過去の研究を再現 (replicate) することから様々なデータ分析の手法を学び、共通のテーマについて話し合い、グループワークを通して実証分析の基礎を養います。2年目からは、自らの関心に沿って、先行研究を読みながらプロポーザル (研究計画書) を練り、卒業論文の作成を進めます。皆さんは卒業すると「学士」になります。多くの人にとって人生で最初の「士」になると思います。最終的に質の高い卒業論文を書き遂げて名実ともに「学士」になることが2年間のゼミの目標になります。

授業の到達目標 Objectives

疑問に思うことを学術的な問いの形で表現する力 (リサーチクエスチョンを立てる力)、「これは！」と思う答えを探し出す力 (仮説を立てる力)、立てた仮説が正しいかを確かめる力 (仮説を検証する力) を養います。これらの力は、学術の世界だけでなく、皆さんが社会人になる時に大きな武器となるだけでなく、日々の営みを豊かにしてくれます。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します。

授業計画
Course Schedule

プレゼミ (2024年度冬クォータ) : R1グランプリ (統計ソフトRを用いて出版された論文のレプリケーションを行い発表するコンテスト) の実施

- 第1回 : インTRODクシヨ、ゼミの運営について、合宿、OB/OGとの交流会に関する検討
- 第2回 : 先行研究の先行研究を読む (先行研究のオリジナリティ分析)
- 第3回～第5回 : 先行研究に関するグループワーク (関連文献を基にした発表・ディスカッション)
- 第6回～第8回 : 先行研究のレプリケーション&分析手法に関するレクチャー
- 第9回～第10回 : グループワークに関する話し合い
- 第11回～第12回 : 先行研究調べとオリジナリティの追究
- 第13回 : プロポーザル発表 (プレゼミ)
- 第14回 : 論文コンクールに向けた論文前段 (イントロ、先行研究・オリジナリティの提示、仮説) の提出

教科書
Textbooks

特にありません。適宜文献を指定します。

(プレゼミ) 今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門 (上・下)』(粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳) 岩波書店、2018年。(Kosuke Imai, Quantitative Social Science: An Introduction, Princeton University Press, 2017.)

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミにおける学習状況、貢献度を総合的に評価します。他のゼミ生のプレゼンテーションへのフィードバックの量、質を考慮します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

- プレゼミ（2025年度冬クォータ）は火曜日2限に予定しています。他の科目と履修が重ならないよう留意してください。詳細はプレゼミのシラバスをご覧ください。
- 本ゼミの1年目は火曜日2・4限、2年目は火曜日4・5限を予定しています。1年目は4限に開講されている4年生ゼミにも参加してもらい、2年目は5限に開講されている大学院ゼミにも出席してもらいます。先輩の研究が出来上がっていく過程をリアルタイムで見ることは生きた教材になるはずです。
- 3年次終了までに、「計量分析（政治）」と「政治テキスト分析」を履修することを、ゼミに参加する条件としています。
- 通常のゼミや合宿への参加は必須です。欠席が多くなる方はご遠慮いただいています。
- 入ゼミ後に課題があります。過去のゼミ生（1期～11期）の卒業論文の中から1つを選び、その論文を2000字前後で論評してもらいます。論文集は下記URLから入手できます (<https://goo.gl/xm88Mj>)。ゼミの面接時に感想を尋ねる可能性があります。同じURLにゼミ生が作成したオリエンテーション資料も格納されています。
- 普段のゼミの様子はゼミ公式のX(@airohinoseminar)やInstagram(airohinoseminar)をご覧ください。
- 留学を予定している学生や留学から帰国した学生にも学びの機会を作っていきたいと考えています。個別にご相談ください。定期的に外国からゲストを招聘し、最新の研究成果や手法について学ぶ機会を用意する予定です。This seminar is open to EDP students. The working language of the seminar will be mainly Japanese but the instructor is prepared to accommodate students who are interested in learning empirical and comparative analyses of media and elections in general.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
118	政治学演習 I (蛭田圭)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	蛭田 圭
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014~2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治思想

授業概要 Course Outline

2026年度開講の新しいゼミです。政治思想に関心のある学生を対象しています。

政治思想とは、科学的な方法を用いた政治学では解明できない政治の諸側面を扱う学問です。「政治哲学」、「政治理論」とほぼ同義語ですが、より幅広く多様なアプローチを包含することが含意されています。

具体的には、自由、平等、権利、権力、暴力、戦争、平和、ナショナリズムといった、政治に関する諸概念について深く学ぶことや、今ある世界の問題点を理解した上で、今よりも望ましい世界のあるべき姿について考えること、さらには、そうした問いに取り組んだ過去の思想家たちの試みを理解することなどが、政治思想の課題として挙げられます。

政治思想を研究する上で、唯一の正しいアプローチというものはありません。関心に応じて、政治制度に焦点を当てる政治学の成果を踏まえたり、「べき論」に取り組む倫理学の知見を参照したり、時代的文脈を精査する歴史学の成果を活用したりと、いろいろな方法がありえます。それぞれのアプローチに長短がありますので、ゼミ生には、自分の関心に合った方法を見つけてもらいたいと思います。

演習Iでは、輪読をしながら、テキストを批判的に読む練習をします。履修者は学期中に最低一度は発表を行い、積極的に議論に参加することが求められます。課題図書はゼミ生の関心を見てから決定しますが、主に日本語文献（日本語で書かれたものか、日本語訳があるもの）を使うことを予定しています。

授業の到達目標 Objectives

1. 政治思想という学問分野を理解する
2. テキストを批判的に読解する能力を磨く
3. 卒業論文で取り組みたいテーマを見つける

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回の授業前に課題図書を読んでおくこと。最低一回はプレゼンテーションを行うこと。

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション、教科書の選定、発表担当週の決定
 第2回：輪読・発表
 第3回：輪読・発表
 第4回：輪読・発表
 第5回：輪読・発表
 第6回：輪読・発表
 第7回：輪読・発表
 第8回：輪読・発表
 第9回：輪読・発表
 第10回：輪読・発表
 第11回：輪読・発表
 第12回：輪読・発表
 第13回：輪読・発表
 第14回：輪読・発表

教科書
Textbooks

第一回目授業までに指定する

参考文献
Reference Books

デイヴィッド・ミラー（山岡龍一・森達也訳）『はじめての政治哲学』岩波現代文庫、2019年
川崎修・杉田敦『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣アルマ、2023年
アミア・スリニヴァサン（山田文訳）『セックスする権利』勁草書房、2023年
坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』名古屋大学出版会、2014年
リチャード・ワットモア（齋藤純一・稲村一隆訳）『入門 政治思想史』中公選書、2025年

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	30%	学期末に、卒論で取り組みたいと考えるテーマを簡潔にまとめて提出すること
平常点評価 Class Participation	70%	授業内での発表と発言の内容を評価します
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

政治学演習 I

2026

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
119	政治学演習 I (谷澤正嗣)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	谷澤 正嗣
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代リベラリズムとその批判

授業概要 Course Outline

政治を語る際に用いられる重要な概念について分析しつつ、「権力とはどんな力か」「自由と平等を両立させる政治体制は可能か」「正義と不正義を判別する原理は何か」といった問題を扱うのが政治理論である。政治理論の研究は古典古代にさかのぼる歴史的次元と、きわめて抽象的な哲学的次元を有するが、本演習では現代の哲学的研究に焦点を合わせる。こうした研究の多くが議論の枠組としているのが、「リベラル・デモクラシー」と称される現代の政治体制である。自由、平等、寛容、複数性、正義といった重要な価値や規範についての、特定のリベラルな構想を肯定し、リベラル・デモクラシーの制度と実践を正当化する志向を強くもつ政治理論を「現代リベラリズム」と呼ぼう。他方、それらの価値や規範に対する批判に重きをおく政治理論を「現代リベラリズム批判」と呼ぼう。現代リベラリズム批判の例として、功利主義、アナーキズム、リベタリアニズム、フェミニズム、批判的人種理論、ポストモダニズム、ポストコロニアリズム、そして保守主義といった観点からの批判が挙げられる。本演習では、現代リベラリズムとそれを批判するさまざまな潮流のあいだの対話を追いながら、現代リベラリズムがどのように洗練されてきたか、それにもかかわらずどのような問題に直面しているかを明らかにする。

授業の到達目標 Objectives

- (1) 現代政治理論の主要な論点、とくに現代リベラリズムとその批判について理解する。
- (2) 哲学的な読解、思考、表現、討論の技法を学ぶ。
- (3) 政治学演習II、IIIおよびIVを受講し、演習論文を執筆するための能力を涵養する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミでの討論に先立ってテキストを読んでおくこと、討論の後にあらためて自分のテキスト解釈を考え直すことを求める。とくに、事前のテキスト精読は必須である。

授業計画 Course Schedule

第1回：イントロダクション 政治理論とは何か
第2回～第13回：文献講読と討論
第14回：まとめと討論

教科書 Textbooks

開講時に受講生と相談の上で指定する。いくつか候補となる著作を挙げておく。

ケリー、ポール 2023 佐藤正志ほか訳『リベラリズム』新評論。

スコット、ジェームズ・C 2017 清水展ほか訳『実践 日々のアナキズム 世界に抗う土着の秩序の作り方』岩波書店。

ウルフ、ジョナサン 2016 大澤津・原田健二朗訳『正しい政策がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房。

参考文献
Reference Books

川崎修／杉田敦編 2023 『新版 現代政治理論 [新版補訂版]』有斐閣。
 齋藤純一／田中将人 2021 『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』中公新書。
 田中将人 2025 『平等とは何か 運、格差、能力主義を問いなおす』中公新書。
 戸田山和久 2022 『最新版 論文の教室』NHK出版。
 デイヴィッド・ミラー 山岡龍一／森達也訳 2019 『はじめての政治哲学』岩波現代文庫。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	レジュメによる報告、討論への積極的で協力的な参加、討論から明らかになる文献の理解度などを総合的に評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>